

『主は羊飼ひ、  
わたしには何も欠けることがない。』

詩編 第23編 1節

◎ 11月の予定

- 1日(月) 授業参観 ～5日(金)
- 5日(金) SST・ステパノスポーツタイム(中)  
聖書教室
- 9日(火) 体験学習(転入) ～11日
- 12日(金) 内部進学者審査 ～13日
- 13日(土) 関東地区私小教員研修会

(オンライン)

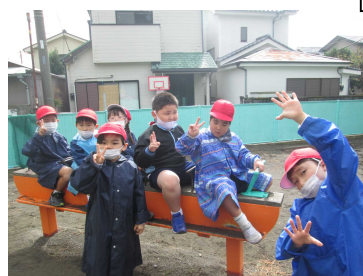
- 16日(火) SST・ステパノスポーツタイム(小)
- 17日(水) 内科検診
- 19日(金) 収穫感謝礼拝、教務委員会
- 21日(日) 西地区記録会(陸上部)
- 24日(水) 期末試験(中) ～26日
- 26日(金) 教職員協議会
- 27日(土) 学校説明会③

◎ 12月の予定

- 3日(金) 校内研修会
- 16日(木) クリスマス礼拝



秋の遠足



◎ 今月の行事から

○ 授業参観

感染防止対策を徹底したうえで、11月1日から5日まで、授業参観を実施しました。ご家庭の希望を伺ったうえで、一つの授業に参加して頂く人数を制限する形で実施しました。久しぶりの参観で子ども達は緊張したようですが、学校生活の様子を見て頂くことができました。

○ 保護者会

中学校(海見えるホール)  
1年 19日(金) 4校時 2年 15日(月) 4校時  
3年 16日(火) 4校時

小学校(会議室)

1年 22日(月) 5校時 2年 22日(月) 2校時  
3年 24日(水) 4校時 4年 25日(木) 4校時  
5年 24日(水) 6校時 6年 26日(金) 3校時

○ 収穫感謝礼拝

今年も多くの実りをもたらす秋となりました。本年も大地の実りを与えてくださった神様に感謝の礼拝をおさげします。

日々私達が口にしていく食べ物、私達に届くまでに多くの方々の苦労と神様が与えてくださる自然の恵みの結果です。収穫感謝礼拝を通じて、今一度そのことをみんなで思う時間になりたいと思います。

まだまだ予断を許さない状況のため、今年も各ご家庭からお野菜などを持ち寄っていただくことはご遠慮させていただきます。

ことば遣い

学園長 小川 正 夫

童謡詩人、金子みすゞさんは、ほのぼのとした詩「私と小鳥と鈴」の中で、「みんなちがつて、みんないい」とうたっています。

ステパノ学園は大小様々な多くの樹木に覆われていて、どの木に近づいてみても、それぞれに成長していて愛おしさを覚えます。

どの木もそこにあるだけで、春はみずみずしい若葉を広げ、夏は涼しい木陰をつくり、ストレスを和らげ、怒りや落ち込んだ感情を和らげてくれます。

ステパノ学園の子ども達や先生方も、一人ひとり長所も短所もあって個性があり人柄も特徴がありますが、みんなよい人ばかりで、会うと元気が湧いてきて希望を感じます。

かつて、小学校で学級担任をしていた頃、子ども達みんなに、私の日常がどのように映っているのかを知りたいと思って、クラスの「お楽しみ会で「先生（私）の、ものまね大会」をしたことを覚えていた七十歳を超えた卒業生が思い出を語ってくれました。六十年前前のことですが、四十五人、誰もが私の癖や特徴を実によく表現していて、楽しく、大笑いしたことを思い出させてくれました。

ものまねといえ、コロッケさんという、ものまねの達人がいます。有名人の個性や癖や特徴を巧みにとらえ、表現して、私達を楽

しませ、笑わせてくれるのですが、コロッケさんは小学校二年生のころ、母子家庭で生活が楽ではなかったので、医師から中耳炎と診断されても治療する余裕がなくて、以来、難聴になったと自著にありました。

そんな暗い生活環境の中でも、歌や踊りではなくとも、表情や癖や仕草のものまねで人を楽しませることができていることを覚え、明るい希望を胸に、今は芸能界で大いに活躍していますが、自分を支え、前向きに努力することができるようになったのは母親の言葉で、生涯忘れることはなく、いつも自分の気持ちを切替える力になったと言っていました。

それは、母親がひらがなで、紙に書いて、ずっと柱に貼ってあったそうです。

「あせるな、

おこるな、

いばるな、

くさるな

まけるな」

という言葉で、「あおいくま」と暗記して、「青い熊」がいつも自分を支え、励ましてくれていると考えていたようです。

ことば遣いは人の心、時には生き方に大きく働きかけます。私達の日常でも、自分では意識していないような、ちよつとした仕草や、一言を人が印象として覚えていたり、誤解を与えてしまったりすることもあります。

口の中のわずかな数センチの舌の動きが言葉として外に出ると、人を勇気づけ向上意欲を

生み出すことができます。その一言が人の命さえ脅かす心の動きを招くこともあります。

「舌三寸に胸三寸」。口から出るちよつとした言葉と、ちよつとした胸の内の考えは、どちらも深い考えによるものではなくとも、それが物事を決定的なものにしてしまうことがあるから、口のきき方も心の持ち方も注意するようにと私が中学生の頃先生から教わったことを思い出します。

目は心の窓といいますが、目は心の状態をとともよく表します。口も心の扉というように、出てくることば遣いは、その時の心の様子をよく表しています。然し、意識して言葉は繕うことができて、目は心を偽ることができません。ですから、なんでも問いただせばよいというわけではありません。個人の尊厳、個人情報侵害しない配慮は必要です。

どんな人との出会いでも、不満や隠し事がない平和な心で交わるのに大切なことは、挨拶だと思えます。世界中の国々、世界中の民族の人達の間でも必ず挨拶があります、

挨拶は最初、出会う人がお互いに、相手に敵意がないことを示し、相手を認め合うことから始まったと読んだことがあります。

保育園、幼稚園、小学校で子ども達が最初に覚えるのは「先生、おはようございます」

「先生、さようなら」です。

昔から、ステパノ学園の児童、生徒は「ご挨拶がよく出来る」と評判がありました。

私達も素直にまねしましょう。

守屋 紗里(1999年卒業)

少しだけ私のバックグラウンドをお話しますと  
小学校3年生から公立の学校に通えなくなりま  
した。不登校の期間を経て、児童相談所から聖  
ステパノ学園を紹介していただき、小学校6年生  
のときに通学生として編入しました。4年近くほ  
ぼ不登校でしたので、今思うと親はさぞかし心  
配だったはずですよ。

「お友だちをつくってほしい」  
「外へ出て人と関わってほしい」

私が在籍していた頃は、エリザベス・サンダース・

りを受けることもしばしばあり、楽しいだけの学園生活ではありませんでした。

ステパノの先生の厳しさには理由があり、叱られることにも納得がありました。厳しさだけではなく、話を聞き、頑張りを認めてくれ、気持ちの変化にも気が付いてくださる温かさもありました。そしていつでもパワフル！中学を例にします

ください。

駆け上がった着替えをしました。ステパノ名物、グラウンドでの外礼拝は、この頃に小川先生よりスタート。春夏秋冬、お山を向いて全校生徒がお祈りし、礼拝後にはラジオ体操・行進をしてから教室へ向かいます。秋には竹ぼうきで掃けども掃けどもひつきりなしに降ってくる落ち葉との格闘もありました。そんな大自然との奮闘も、今では貴重な経験です。よく池から脱走した亀がしばらく旅に出た後、3倍ぐらいの大きさになって帰ってきていましたが、我々もそのように成長できたかと思えます。

ちよつとやそつとのことではへこたれないという私の基礎は、聖ステパノ学園で作られました。高校、大学と進み、社会人になつても、培つたたくましさは相変わらず健在です。

最後に、2012年に逝去された嶋田先生のお言葉を紹介させていただきます。中学卒業の日に「履く靴はきれいにしておくという約束をしてほしい」とお話くださいました。教師の目の届かない学園の外に出る者たちへ、疎かになりがちな部分こそきちんとする人になつてほしいとの親心・激励だったかと思えます。このことはいつも心にとめております。

これから子どもたちが優しくたくましく成長するため、聖ステパノ学園を神様が見守ってくださいますよう、お祈りしています。





WA になっておどろう

教諭 和田 好江

### 〈子どもの生活環境は・今〉

ご家庭でスマホはお使いでしょうか。スマホのない生活は現在考えられません。小学生の使用が急増、ゲームやタブレットからスマホへ移行しているようです。乳幼児期から親のスマホに触れていたという子も少なくないでしょう。大人になってから使用している私たちとは勝手が大きく違います。

本来であれば、外で体を動かし友だちと運動する遊びが良いとしたいところですが、コロナ禍で感染不安、不要不急の外出もできない時間が多く様々な電子機器を使い友だちとつながっていくことができる生活になりました。国内の SNS の利用者は現在約八千万人ほどだそうです。コロナ禍で直接会わずに人と繋がることで SNS の良さを実感する日々が続いています。

しかしながら、SNS がトラブルの原因、はじめの原因の一端を成していることもありま

すが、多いのです。また、メッセージは短文になり、受け取る方は誤解が生じやすいです。スマホは文化です。スマホ時代に生まれている子ども自身が自ら考え、大人は支援者となつて、共にルールを話し合つて納得して決めて、それを守つて共同生活することが重要です。是非、安全にスマホを使用したいと思ひます。併せて、直接話せる状況であれば、顔を見て会話をすることがやはり大切ですね。

### 〈世の中ルールの「報・連・相」〉

「報告・連絡・相談」は社会人として仕事をする上で必要不可欠な事とされていますが、学校生活の中でも大切だと常々子ども達と確認するやりとりが多いです。

また、教員間が良い同僚性を保ちながら、年齢差のある職員間でも「報・連・相」を常にスピーディーにし続けていくことのできる言わば「ONE TEAM」でありたいと思っています。

### 〈新型コロナウイルスを正しく怖がり希望をもつて〉

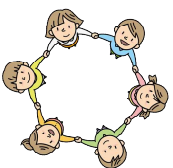
二〇二〇年に入り日本に新型コロナウイルスが蔓延し始めた頃、日本赤十字社が出していたパンデミックになったら人や社会はこうなるという分かり易い資料の存在を知り、保健体育の課題でも取り扱いました。新型コロナウイルスの正体が目に見えない事や近くに感染が広がっている情報を聞くと、人は見えない敵に対して不安を感じ、不安が大きくなり、差別意識が生

まれ易くなる。その資料の通り今現在もそういった社会は続き長期戦になりました。コロナ禍の子ども達の不安は、社会の大人の不安が大きく影響します。先ずは、大人の心の中にある不安を上手に取り除き、耐えて、そして希望をもって生活しましょう。

感染対策を当たり前にできるようになった私達は、健康生活をみんなで送り、明るく元気に皆さんで乗り越えましょう。差別を生んではいけません。負のスパイラルを断ち切りましょう。自分をしっかり持ち、豊かな心で他者を思いやつて優しい気持ちでお互いに生活できたなら幸せですね。

### 〈WA になっておどろう・みんなで〉

最近、体育でダンスの授業をしており「友だちと共にダンスを作つて楽しく踊ろう」という学習内容でした。五年生の選曲は、「WA になっておどろう」でした。気持ちの乗らないことがあつてもみんなで輪になって楽しく踊っちゃおう！という前向きな気持ちは、育つて欲しいステパノっ子だと思っています。保護者の皆様、学園をご支援くださる皆様、子ども達の外側の輪に是非お入りください。皆さんが笑顔で生活し子どもだけでなく大人も成長していきましょう。





## タスキを繋ぐ

教諭 二椋木 健太

10月9日(土)陸上競技部の選抜メンバーが中郡中学校駅伝大会に参加してきました。結果は3校中3位と結果だけ見ると残念ではありましたが、10月とは思えないほど気温が高く、選手にとっては厳しい条件の中でしたが、今回メンバーに選ばれた6人の部員は出場出来なかった部員の思いも力に変え、最後まで諦めずにタスキを繋ぎました。また、前回大会までは先頭とは序盤から大きく差を広げられてしまうのに対し、今年は中盤まで先頭争いをする事ができ、ドキドキハラハラするレース展開で、観ている人たちも引き込まれるような大会でした。駅伝はチームの中でいくらか強いエースと呼ばれる選手が一人いても勝つことは出来ません。チーム全員の力、いわゆる総合力があるチームが勝つことが出来ます。今回、先頭争いが出来たのはコロナ禍で全体練習が十分に出来ない状況でもそれぞれが練習を重ね一人一人の力がついた証拠だと感じました。

本学園の陸上競技部は早いもので今年度をもって8年目となります。創部当初は今回の駅伝大会のように先頭争いをすることも個人種目で県大会に出場することなど考えることもできず、それよりも競技場に行けばいつもハプニングの連続でした。招集に漏れてしま

う事や緊張でウォーミングアップも出来ず競技場の隅でただ立っていることもありましたがスパイクのヒモがゆるく走っている時にスパイクが脱げてしまった事もありましたし、長距離種目で周回を間違えてしまう事も…思い出すとキリがありません。ただ今まで陸上部で頑張ってきた先輩達はそんなことよりも多くのものを今頑張っている部員たちに残していつてくれました。

まず一つ目はひたむきにコツコツと練習に取り組んでいくことです。ステパノでの練習日は週に1〜2回程度しかありません。休日に練習をさせてもらっても多くて3回。他校に比べると練習量は少ないですが、それでも他校と競い合っている子は自分達で練習をする時間を作っていました。夕方になると毎日のようにサイクリングロードへ走りに出かける、夜ライトを持って走りに出かける、そんな毎日コツコツと取り組む姿勢が少しずつ力になっていきましたし、何よりも自分の中で頑張った努力が記録や結果に出たときに大きな達成感に繋がっていきました。そういった少しでも上のステージを目指して取り組んでいた姿はチームメイトや後輩の良い刺激となっていました。

二つ目は後輩達や仲間を気に掛けることです。ここ数年、普段の練習では自分が走り終え、苦しい中でも声をかけたり、拍手をしたり、チームとしてお互いに苦しい時に支え合う姿が見られるようになりました。大会に行

けば、先輩が後輩を連れて招集所まで付き添いをすることもあり、チームとしてお互いに助け合い、支え合うことが出来るようになってきました。そして自分達が先輩になったときに、助けてもらった優しさを後輩達に向けてあげられるよい流れができてきました。今回、実際に走り、タスキを繋いだ部員は6人だけですが、今までの先輩達が日頃の練習から築き上げてきたものが、目には見えないうタスキとなつて、後輩達に繋がってきていると感じています。今後、さらにまだ見ぬ後輩達に、より思いの詰まったタスキが繋がっていくと嬉しいです。



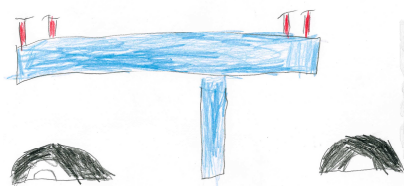
中郡中学校駅伝大会 チーム「ステパノ男子」

**「小学校」歩いて行かれる範囲で、学年ごとに遠足に行きました。大磯町内でしたが、大喜びの子ども達の感想をお伝えします。**

### 秋のえん足

今日は、なかよし公園にえん足に行きました。Aちゃんと手をつないで行きました。小雨がふつていてしんぱいでしたが、たくさんあそべてうれしかったです。またみんなと行きたいと思いました。

(2年 KR)



ぼくは、えん足でなかよし公園にあそびに行きました。まずはシーソーから、あそびました。つぎに、すべりだいであそびました。雨がふったけれど、すべりだいは、ふいたので、とてもすべりやすかったです。

(2年 YH)

今日、ぜんべえ池に行きました。行くときに、お花がいっぱいさいていました。すすんで行くと、原っぱがありました。ぜんべえ池



につくと、せきひがありました。帰ろうとしたら、キイロスズメバチと大きなミミズがいきました。学校についてから、おべんとうを食べました。食べ終わってから外に行つて、おにごっこをしました。ぜんべえ池に行かれてうれしかったです。

(3年 OT)



今日は、ぜんべえ池に行きました。ぜんべえ池までは遠くて、つかれました。歩いていたら、きゆうに雨がひどくなり、ぜんべえ池にいたら、少し水がたまっていました。とてもうれしかったです。

(3年 CS)

山登り大変でした。つらかったです。つかれたから、お弁当おいしかったです。あきらめないで登れてよかったです。また登りたいです。つぎはもっと楽に登りたいです。

(4年 TA)

今日は、湘南平に山登りの遠足に行きました。途中で急に雨が降ってきたので、トンネルで雨やどりをして、レインコートを着ました。お茶をひと口飲んだら、「さあ、出発！」と先生が言つて、またみんな歩き出しました。

転びそうになった時には、H君が背中を支

えてくれたり、Kちゃんが手を差し出してくれたことが一番嬉しかったです。お友達のおかげで、がんばって歩いて頂上まで登れました。

湘南平に着いたら、お母さんのお弁当が美味しかったです。美味しいお弁当を作ってくれたお礼に、どんぐりをたくさん持って帰ってあげました。

帰りは、H君が、足が痛いと言つて泣いて、座り込んでしまいました。みんなで「もう少しだよ、がんばれ！」と応援して、H君もがんばりました。みんなが助け合ったことが、嬉しかった遠足でした。

(4年 UM)

今日は、秋の遠足だった。湘南平に行くんだ。すごい危ない山道を歩いて行くそうで、ぼくは行く前、どんな道か想像して、楽しみにしていた。思っていたより大変で、くつ下もどろだらけで、上り下りもあって、下りは座つて下りる子もいた。そして一時間半かかってついに着いた。すぐく広くて展望台も、遊び場もあって、草むらや鉄塔もあった。まずは鉄塔に上った。でもぼくは高い所が怖くてすぐに下りて行つた。展望台も見に行つて、望遠鏡で海や山や町、新幹線も見た。その後、草むらでお弁当を食べて、遊んで帰った。帰り道も大変で、上り下りできる所もあったけども危ないからやめて、道を歩いた。大変だったけど、最後は着いて、楽しかったと思つた。「終わり」

(5年 IN)

「中学校」海を越えておしゃべり！（英語科）

中学三年生の英語の授業では、教室とアメリカをオンラインでつないで、ネイティブの方々と交流の場を持ちました。子どもたちは自分の英語が通じたことで自信をつけたようです。

とてもいい機会をもらえてうれしかったです。相手の人は、英語も日本語もうまかったなと思いました。（MK）

デイビットさんやリアムさんは、英語の発音がスラスラで速く話していて、私にはわからない発音や言葉がありました。けれど、知っている単語（studyやEnglish、likeなど）はわかったのでうれしかったです。（KM）

自分の言いたいことが伝わったのが、とても嬉しかった。ジブリ映画や「君の名は」などを知っていてびっくりした。とても楽しかったので、もう一度話したいと思った。

（FY）

とても面白かったですし、リアムさんとデイビットさんも面白い人で、楽しく参加することができました。リアムさんの「おじさんの話は聞き取りづらい」の所は本当にツボにきましたし、デイビットさんの「wってどういう意味？」という質問、最初私もそうでした（わからなかった）ので共感できました。（笑うっていう意味です！）

BTSやBLACK PINK（私の好き

な韓国の音楽グループ）を知っているか聞いてみたいですね！（YA）

今日、外国の人と話せてうれしかったです。もう一度やってみたいです。次はもっと英語を話せるようにしたいです。（ND）

I was surprised. Because David and Liam know Ghibli well. Japanese culture is known to people living in the U.S. I'm glad to know that, also, I want to learn about American culture more. I want to ask them do you know any movies made by Quentin Tarantino? (AH)

I was glad to talk with them. It was easy for me to talk with them. Because they were very friendly. Also, they spoke both English and Japanese. So, I learned about English expression. I want to ask Mr. David his favorite historical person because he studies Japanese history. (AN)

### アメリカの方の感想

Thank you very much. It was very fun. I'm happy they liked the おじさんの真似！（笑）  
They spoke very good English!  
Of course, if there's a chance another time, please let us know. Liam

リアムさんより  
本当にありがとう。とても楽しかったです。彼らがおじさんの真似が気に入ってくれてうれしいよ！（笑）  
かれらはとても上手な英語を話しますね。  
もし次の機会があったら、ぜひ教えてください。



New York は夜 9 時。中3代表が「こんばんは」と日本語でもあいさつ。





今号は、卒業生にお話を伺いました。

前回(二〇一九年十二月〜二月)、卒業後五年強の先輩方にお話を伺いました。今回は、卒業から十年強の先輩方に、本校で過ごした時間を書面にて振り返っていただきました。

三十歳前後とられた現在は、パソコン関連の仕事、スーパーマーケットの鮮魚を扱う仕事、老人介護施設の厨房での仕事、東京都の区役所で経済的困窮者に生活保護制度の案内をする仕事、運送業や主婦業をされ、皆さんそれぞれの道でご活躍です。

心に残る思い出としては、運動会、ステパノまつり、「学園全体が暖かい雰囲気」となるクリスマス祝会などの行事、修学旅行で訪れた広島や京都が挙げられ、「自分が団長をやった運動会の応援合戦が一番」と、生き生きとした活躍の思い出も語られました。

中には、上皇上皇后両陛下のご来校の折に、「生徒代表でご挨拶をさせて頂いたこと」や、「当時の理事長先生や先生方と挨拶の練習をしたこと、全生徒で校内の草むしりなど校内整備をしたこと」を大きな思い出とされた方もありました。

エリザベス・サnderス・ホームと本校は、一九五五年(昭和三十年)に昭和天皇・香淳

皇后のご来校、二〇〇二年(平成十四年)には、上皇上皇后両陛下のご来校を賜りました。

また、「毎朝の礼拝」、「いっぱいありすぎて『これだ!』と選べない」、「ステパノで学んだ十二年間全てが大切な思い出(当時は幼稚園もありました)」など、毎日の生活そのものの想いが多く語られていたことが大変印象的で、それが本校の真髓のように感じました。

在校生へのメッセージもいただきました。  
「やるべき事はしっかりやって、楽しむ時はとことん楽しんで、ステパノ学園で経験した事一つ一つを大切にして、悔いのない学校生活を送ってください!」

「ステパノでは社会で生きていくための大切なことをたくさん学べます。厳しいこともあるけれど、ひとつひとつ身につけていってくださいね」

「若いみなさんが毎日笑顔で過ごしてくれることが、周りの大人の一番の願いです。自分の気持ちを大切にして、自分が笑顔になれる物や場所、一緒にいて笑顔になれる人を探してみてください。笑顔で過ごしていけば、将来は何とかなります。ステパノで過ごす今の時期を楽しんでね!」

先輩方の現在を伺うことは、私たちが在校生家族の希望にもつながります。瀧澤裕史さん(二〇〇五年卒)、藤巻(旧姓・関)美加さん(二〇〇六年卒)、田沼花郁さん(二〇〇七年卒)、他三名の方のご協力に感謝申し上げます。

## STEPHEN'S NEWS

【表彰】 ◎日本漢字能力検定

|     |    |     |     |
|-----|----|-----|-----|
| 十級  | 小2 | I・R | K・M |
|     |    | S・M | Y・H |
| 九級  | 小3 | O・Y | C・S |
|     |    | Y・E |     |
| 八級  | 小4 | S・Z | S・H |
|     |    | T・H | M・A |
| 七級  | 小5 | H・R | K・H |
|     |    | M・A |     |
|     | 中2 | I・N |     |
| 六級  | 小5 | I・N | 小6  |
|     |    | F・C | Y・Y |
| 五級  | 小5 | S・P | 中1  |
|     |    | O・K | S・H |
|     |    | S・S | T・Y |
| 四級  | 中1 | O・T | K・R |
|     |    | 中2  | A・K |
|     |    | K・H |     |
| 三級  | 中3 | N・D | Y・A |
|     |    | 中3  | A・N |
| 準二級 | 中2 | S・A |     |

◎すくすくのつぼくんカップ 神奈川県 藤沢

オレンジボール大会10月 オレンジボールの部

準優勝 小3 O・Y

【編集後記】 遠足、修学旅行と徐々に行事が再開されました。子どもたちが楽しむ様子や頑張る姿をあらわこちらで見ることができたととても良い時間でした。(ひ)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>  
二〇二一年十一月十五日(月)発行 第259号